

乙訓教育局教職員支援アドバイザーが授業づくりの視点や課題についてお話しします！

授業づくり めもらんだむ

Vol. 3 ワークシートのメリット・デメリット

先生方、授業づくり、学級づくりは順調ですか？今回は授業で使う「ワークシート」について考えてみましょう。



ワークシートのメリットとデメリット

ワークシートの
メリット、デメリットを
整理してみよう！

メリット

授業の流れがひと目でわかる

ワークシートにはその授業で学習する内容の一部(時にはすべて)があらかじめ書かれており、子どもはあらかじめ授業の見通しを持つことができる。

用語・文言の確認に最適

重要な用語や文言などを記入させることで、覚えてほしい内容を簡単に示すことができる。テスト前などの振り返りにも活用できる。

先生同士の連携が容易

他の先生と授業の進捗や内容をごく短い時間で交流することができ、連携が容易である。

デメリット

驚きや意外性、サプライズがない

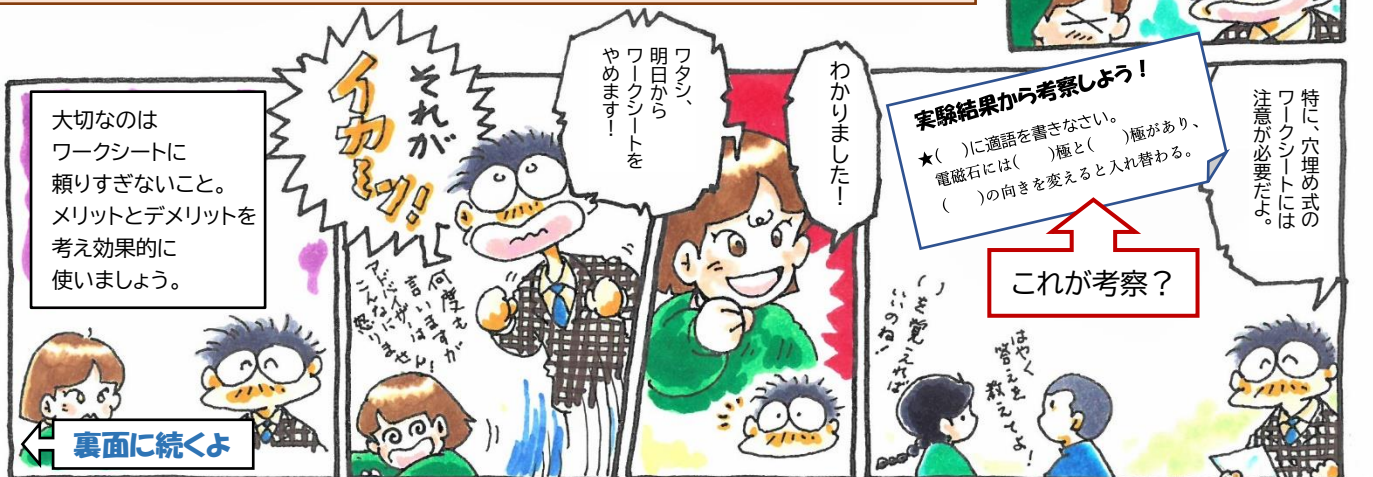
授業を進める中で発見してほしいことや気づいてほしいことがワークシートから予想でき、子どもたちの興味をそいでしまうこともある。

知識・技能の学習に偏りがち

用語・文言を確認するだけでなく、考えさせたり表現させたりすることがねらいの場合、ワークシートの作成にはかなりの工夫が必要になる。

作成に追われることも……

自分の授業に合わせて、ワークシートを工夫するにはある程度の労力と時間が必要になる。



ワークシートを活用した授業では
どんなことが期待できるのか
まとめてみました。



ワークシートにできること

知識・理解の確認、定着

穴埋め型ワークシートで、重要な用語や定義などを確認したり、ドリル型のワークシートで、繰り返し練習をさせたりして、知識・技能の定着を図ることができます。

思考を促す、活性化させる

課題を解決するための手掛かりやヒントを示すワークシートで、思考を促したり活性化したりすることができます。

考えを整理させる

自分の意見を整理したり、考えをまとめやすくしたりするために活用できます。

学びを振り返らせる

授業の内容をまとめたり振り返ったりすることで学びを確かなものにする
ことができます。それらを学びの足跡として蓄積することも可能です。



ワークシートは目的によっていろいろな
種類があることも知っておきましょう！

ワークシートのいろいろ

穴埋め型

用語や単語、時には言葉や文章などを穴埋め式で記入させ、知識や技能を確認させる形のワークシートです。子どもたちも取り組みやすく、何を学んだかの振り返りも容易です。

問題・ドリル型

例題や類題、練習問題が並ぶものや、単語や漢字を繰り返し練習するようなワークシートです。解法のヒントや参考資料をつけておけば、子どもたちに独力で取り組ませることもできます。

思考ツール型

思考スキルを身に付けることをねらいとした、ベン図や X チャート、フィッシュボーン図などの思考ツールを組み込んだワークシートです。授業の構想によって様々な活用が工夫できます。

作文・記録型

自分の意見や考えを書き記したり、観察や実験の結果を記録したりする欄が多くを占めるワークシートです。

チェックシート型

グループ活動の評価や自己採点表などのワークシートです。生活面の指導にもよく用いられます。

※ これらが複合しているワークシートもあります。

ワークシートも、「授業のねらい」を
達成するために効果的かどうか、
という視点で考えるべきなんですネ。



次号もお楽しみに！